

会計区分	01	一般会計
------	----	------

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	02300000	産業振興部 環境課
02	清掃費	03 環境整備費
KPI	あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合	目標値 120,000人 80.0%
目標年度	令和6年度	

事業実施の背景にある課題	生物の多様性は、人間が行う開発等による生物種の絶滅や生態系の破壊、社会経済情勢の変化により里山管理不全による里山の荒廃、気候変動やグローバル化による外来種等による生態系のかく乱等の深刻な危機に直面している。 圏域では、「自然環境調査」及び書籍「守りたい加茂の豊かな自然」の刊行で、圏域の自然が豊かで貴重であることが示され、「生物多様性加茂プラン」の策定により、8市町村が一丸となって事業を行っている。今後我々が生きていく上で自然との共生について、毎年実施している自然環境調査のデータ追加も行い、理解を深めることが重要である。
対象	圏域内外の住民
目的	圏域の人々が生物多様性の保全の意識を高めている。また、圏域外からは、圏域の豊かな自然に魅力を感じ、来訪する人が増加する。
概要	圏域の自然環境を保全するため、8市町村合同で環境フェアを開催し、圏域内外に情報を発信する。圏域の自然環境調査を継続し、基礎データを充実させる。書籍「守りたい加茂の豊かな自然」を活用した学習会を開催する。生物多様性地域戦略を実践し、地域間交流を深める。
事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06
予算額	290 4,470 4,788 4,388 4,388
決算額	250 464 3,723 3,779 4,166
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	553 / 0

活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
生物多様性学習会の実施回数	目標値			4	5
	実績値			2	5

KPI(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
圏域住民の関心度(人) 環境フェア及び学習会の圏域住民の参加者数	目標値	2,000	2,000	2,500	3,000
	実績値	0	0	2,527	2,483

実績	取組 e-kamonまるごと環境フェア2024実施 30団体参加 【ステージイベント】さばいどるかほなん氏【研究発表】加茂農林高校、加茂高校、八百津高校 自然科学部 参加者: 4,108人(圏域2,876人圏域外1,232人) 取組 自然環境基礎調査等業務を美濃加茂自然史研究会へ委託 ・カワゲラウォッチングへの授業協力、生物多様性学習会開催 ・美濃加茂市 16人「アルゼンチンアリ防除説明会」実施 ・坂祝町パネル展示(生物多様性について)、川辺町パネル展示(生物多様性について) 100人、白川町 27人「地域の農業と生物多様性を考える講演会」実施
効果	環境フェアや生物多様性学習会の開催、美濃加茂自然史研究会の自然環境基礎調査の実施により、圏域の生物多様性の認識や、生態系の保全に対しての重要性が多くの人々にアプローチできている。
活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	令和6年度は各地区にて生物多様性に関するパネル展示を含めて生物多様性学習会を5回開催することができた。来年度も加茂郡町村と連携して改訂予定の「守りたい加茂の豊かな自然」をもとに生物多様性に関する後援会の実施などを行い、目標達成できるようにする。
KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	今年の環境フェアは天気も良く、他の大きなイベントとも重ならず、公園入場者数も多かったが、学習会の開催回数が1回に留まったため、合計の参加人数が目標の3,500人には届かなかった。
実績からR07年度の事業の方向性	引き続き第4次定住自立圏構想で生物多様性連携促進事業を継続する。令和7年度は「守りたい加茂の豊かな自然」を改訂する。改訂版を各市町村HP等で公開し、子供向けのパンフレットの改訂版の元データとする。それにより、加茂圏域に生物多様性と地域の魅力を発信していく。環境フェアについては開催内容を見直し、SDGsに取り組む企業の参加増を図る。また生物多様性に関係した食品等を販売したり、体験型の展示を増やすことで、参加者数の増加を図る。

インプット

アウトプット

アウトカム

会計区分	01	一般会計
------	----	------

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	02300000	産業振興部 環境課
02	総務費	01 総務管理費 06 企画費
KPI	あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合	目標値 120,000人 80.0%
目標年度	令和6年度	

事業実施の背景にある課題	SDGsは一人ひとりがその内容を咀嚼し、自分にできることに取り組むことが求められるが、SDGs全般の概念、美濃加茂市が取り組む「ローカルSDGsみのかも」の理解が十分でないこと。			
対象	市民、市内事業者			
目的	市民、市内事業者に対してローカルSDGsを推進し、実現する			
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs未来都市の選定を受け、SDGsの推進のための事業を行う</li> <li>ソーシャルビジネスシティに向けた取り組みを行う</li> </ul>			
事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06			
予算額	35,000	30,000	1,000	1,000
決算額	34,097	3,681	1,000	601
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	922 / 0			

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
普及啓発活動(パネル展等)	目標値		3	3	3	5
	実績値		1	4	6	6

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
SDGsの内容まで知っている人の割合	目標値		20	30	40	50
	実績値		27.3	35.6	40.4	38.2

実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の動画視聴者に向けて、美濃加茂市のSDGsの取り組みの動画を配信。</li> <li>「ローカルSDGsみのかも」パネル展を、環境フェア、市民まつり、成人式、中央図書館、東図書館、中部圏SDGsフェスティバルなどで実施。</li> <li>商工会議所の会報にSDGs推進パートナー企業登録の案内チラシを折り込み。</li> <li>小学校8回、加茂高校1回とて計9回SDGs講座を実施。</li> <li>SDGs推進パートナー企業登録6社。</li> </ul>
効果	<p>パネル展や、SNNSでの情報発信を通して市民や地域企業がSDGsの取り組みを理解することにつながった。</p> <p>また、みのかもSDGs推進パートナー企業の募集登録を進めるこによって、市や市民、事業所が一体となって「健康な心」「健康な体」「健康な社会」の構築を目指し、豊かな暮らし=住み続けられる美濃加茂市に繋げることができた。</p>

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	機会を生かして、パネル展での啓発ができた。また、市内学校にてSDGs講座を実施できた。主に小学校中高年を対象とし、学童期からSDGsの取り組みについて周知を図ることができた。また高校生の希望者にも講座を開催し、理解を深めてもらうことができた。
KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	令和5年度から数値が下がってしまった。今年度前半に啓発ができなかつたが年度末に広告配信業務を実施した。その効果がまだ不確定だが、来年度も引き続き効果的な啓発を実施して、KPIを上げていく。
実績からR07年度の事業の方向性	新たに学生や市民に対する講座の回数を増やし、認知度向上を図る。また、パートナー企業登録のメリット等を再考し、企業と共同でSDGs推進を図っていく。

アウトプット

アウトカム

インプット

会計区分	01	一般会計
------	----	------

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	02300000	産業振興部 環境課
02	清掃費	03 環境整備費
01	120,000人	
80.0%		

事業実施の背景にある課題	近年、大気汚染などの環境問題が増えておりこれらの問題は生態系や人間の健康に悪影響を及ぼす恐れがある。特に地域住民の環境への関心の低下は犯罪や環境破壊につながるリスクがある。市ではポイ捨て等防止条例等が制定されているため、環境美化の促進を図る必要がある。
対象	市民（推進委員は市民から選出）
目的	地域住民の環境美化意識の向上
概要	・環境美化推進員16名による8地域における活動を支援する ・看板設置による不法投棄の防止 ・まちを美しくする意識高揚を目的に、自治会等の花壇の為の花の苗を配布する
事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06
予算額	2,075 2,826 3,043 2,878 3,084
決算額	1,661 2,279 1,902 2,821 1,937
年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	250 / 250

活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
花苗配布回数	目標値	1	1	1	1	1
	実績値	1	1	2	2	2

KPI（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
参加団体数（自治会）	目標値	69	60	60	60	60
	実績値	50	59	55	53	58

実績	花苗の配布団体数 6月 7,507株 58団体 11月 6,572株 50団体 看板配布 157枚（不法投棄抑制に関するもの、犬粪処理に関するもの）
	年2回の花苗配布で地域に環境に対する美化意識の向上を図れた。各種看板を配布したことにより周知や啓発を図れた。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因 各地区で花苗による環境美化意識向上に関心を持ってもらえた。 令和7年度から配布回数ではなく、配布することで市民のまちに対する美化意識の向上をするため指標を変更する。
	活動団体の活動時間や人員の確保が難しくなってきたため。
KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因 引き続き、花苗を植えていただける団体に対してだけでなく、全自治会に向け希望調査を行い多くの自治会で環境美化に対する広がると考えている。	
	実績からR07年度の事業の方向性

アウトプット

アウトカム

インプット

会計区分	01	一般会計
------	----	------

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	02300000	産業振興部 環境課
02	清掃費	03 環境整備費
04	衛生費	
KPI	あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合	目標値 120,000人 80.0%

インプット	事業実施の背景にある課題	ごみの処理によってごみの埋め立てや水質汚染などが起こり、地球環境に悪影響を及ぼす恐れがある。また、ごみの処理は二酸化炭素等の有害物質の排出源となる。ごみの量を減らさないと地域の美観に悪影響を及ぼし住みやすさや観光の面でマイナスとなってしまい生活系可燃ごみの処理コストの増加につながる。
	対象	市民及び事業者
	目的	生ごみや庭木の剪定木を処理機で処理し、コンポストによりたい肥化して、生活系一般可燃ごみの減量を促す
	概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭のごみ減量に有効な機器の購入補助（生ごみ処理機、コンポスト等）</li> <li>ぼかしの製造補助</li> <li>エコパッケ等環境配慮製品の製造補助</li> <li>市民団体等による資源回収活動を支援するための奨励金交付</li> </ul>
	事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06
	予算額	1,418 1,608 1,691 1,703 1,904
	決算額	1,127 1,430 1,448 1,315 1,885
アウトプット	年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	812 / 0

活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
年間資源回収量（t） 市民団体+事業者	目標値	3,350	3,350	3,350	3,350
	実績値	1,514	1,570	2,088	2,085

KPI（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
1人1日あたりの生活系可燃ごみ排出量（g）	目標値				490
	実績値				433

実績	家庭用廃棄物処理機器 98機補助 (コンポスト12、処理機57、粉碎機22、バケツ7) 生ごみ発酵促進剤(300g入り7,583袋) 環境配慮製品(0件) 資源回収(4団体)
	令和3年度から令和6年度は毎年生活系ごみが減少している。環境教育の充実やリサイクル意識の向上、無駄のない消費習慣が原因と思われる。生ごみ減量のための生ごみ処理機器等の補助金も累計でかなりの件数を補助している。補助金利用者からは生ごみや木枝のごみが資源として活用できるようになったとの声もあり、地道な施策がごみ減量に寄与している。
評価分析	資源回収は、昔はPTAなどの団体で行っていたが、現在は、企業による無人の資源回収所が市内でも多く、またスーパー・ドラッグストアでも資源回収を行っており、回収量が増えている。
	生活系可燃ごみの排出量は、ここ数年減少が続いている。美濃加茂市は、人口が微増しているので、ごみ減量の政策の成果として、引き続きごみ減量の施策を行う。
KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	令和3年度から6年度で可燃ごみが減少しており、引き続きごみ減量に取り組む。
	令和6年度までは「美濃加茂市地球資源集団回収事業奨励金」は対象品目ごとの1キログラム当たりの引き取り価格が3円に満たない場合において、3円から当該引取単価を差し引いた額に引き渡した量を乗じた額の合計であったが、令和7年度からは対象品目ごとに1キログラム当たり3円に引き渡した量を乗じた額の合計とする。
アウトカム	実績からR07年度の事業の方向性

会計区分	01	一般会計
------	----	------

## 令和6年度 事業評価書

事業主体	02300000	産業振興部 環境課
02	清掃費	03 環境整備費
04	衛生費	
KPI	あい愛バス利用者数 住みよいまちだと感じる人の割合	目標値 120,000人 80.0%

インプット	事業実施の背景にある課題	平成23年に東日本大震災が発生しエネルギー不足による化石燃料への依存度が高まったことで温室効果ガス排出量が増加し、日本の環境政策では、特に地球温暖化対策や再生可能エネルギーの分野において転換期を迎えた。地球温暖化対策、ごみ問題、生物多様性保全対策は、地方自治体や市民も自らの課題として認識し行動を起こすことが求められている。
	対象	市民、事業者、市
	目的	豊かで快適な環境の保全と創出を実現する
	概要	「第3次みのかも環境まちづくりプラン（美濃加茂市環境基本計画）」に基づき、4つの分野で定める『重点プロジェクト』（以下「P」）に取り組む ・生物多様性を守るP ・循環型社会をつくる4Rを推進するP ・地球にやさしいエコタウンP ・次世代につなぐ環境教育P
	事業費（千円）	R02 R03 R04 R05 R06
	予算額	1,098 1,179 4,192 1,752 1,748
	決算額	727 724 3,849 1,419 1,176
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	1,402 / 0

アウトプット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	実施した事業数（市民、事業者との協働含む）	目標値	19	20	20	25
		実績値	6	23	20	32
アウトカム	KPI（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	事業の参加人数 (キャンドルナイト含む)	目標値	4,000	4,000	4,000	5,500
		実績値	570	1,043	5,000	10,796

評価分析	実績	生物多様性を守るP 川の生きもの観察会22人、野鳥観察会26人 循環型社会をつくる4Rを推進するP ダンボールコンポスト講習会 14人リサイクル リサイクルステーション 、きらきらエコハウス 7,546人 地球にやさしいエコタウンP 緑のカーテン講習会 14人 キャンドルナイト 900人 次世代につなぐ環境教育P 伊深小環境教育支援 延べ52人 水を豊かにする木の観察会32人
	効果	市民等へ情報発信していき、その手法としてイベントの開催も行っているが、市やボランティア団体などの活動を通して、市民の身近に感じもらっている。
	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	R6年度はR5年度に比べ、小学校でのSDGs学習会の回数も5回から9回と増え、市のイベントにおける啓発活動もきめ細かく行うことができた。
評価分析	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	実施事業数が増えたことに加え、コロナの緩和により、経済活動量が増え、それぞれの活動やイベントに参加する人数の増加につながった。
	実績からR07年度の事業の方向性	引き続き重点プロジェクトを推進し、環境面について市民や事業所と市で連携して、豊かで快適な環境の保全と創出を実現する。 R7は小学校だけでなく、中学校、高校での啓発活動も増やしていく。

# 令和6年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	02300000	産業振興部 環境課
大事業	E1	6つのまちづくり宣言 地域再生	款項目 KPI	02 総務費	01 総務管理費
		目指す姿 地域的魅力をアップデート！		120,000人	06 企画費
中事業	03	主要な取り組み 地球とまちの環境を守る		80.0%	
小事業	05	地域脱炭素移行・再エネ推進事業	目標年度	令和6年度	



事業実施の背景にある課題	近年、気温の上昇や豪雨の増加、それに伴った土砂災害など、地球温暖化による影響が顕在化し、2015年にパリで開催された「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)」では2020年以降の気候変動問題に関する国際的な枠組みとして、「パリ協定」が採択されることを受け、わが国では「地球温暖化対策計画」が閣議決定され、温室効果ガスの国内の排出削減・吸収量の確保において、2013年度比4.6%減という目標が掲げられた。本市においても、「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、「2050年カーボンニュートラル」を実現するためには、省エネ技術と太陽光発電設備導入推進を柱にを進める必要がある。				
対象	市内事業所、個人				
目的	2050年のカーボンニュートラルの実現 再生可能エネルギーを利用比率を高め二酸化炭素の排出を抑制する				
概要	重点対策加速化事業により太陽光発電設備等や、電気自動車、V2H、ZEB、ZEH、高効率空調機器、LED照明などの補助メニューにより、再エネ・省エネを推進。				
事業費(千円)	R02 R03 R04 R05 R06				
予算額			81,000	70,249	62,250
決算額			24,491	23,319	13,916
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	812 / 0				

活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
補助メニュー数	目標値			1	3	5
	実績値			2	4	2

KPI(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
重点対策加速化事業の執行率(%)	目標値			90	90	100
	実績値			90	30	25.8

実績	個人設置 太陽光パネル 24件 蓄電池 22件 補助金額 12,331,000円
効果	市内で個人設置太陽光発電設備を導入することにより、CO2の削減をし、2050年カーボンニュートラルに貢献する。

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	重点対策加速化事業の計画書のメニューを実施する中で、見切り発車的なところもあり、また、設備のある程度専門的な知識も必要な中で、環境省や、市内事業者との連携して実施する体制が不十分な状態であった。
KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	重点対策加速化事業の計画書通りのメニュー実施(要綱制定)が難しく、また今年度は急な環境省の中間評価の対応などで、進捗及び執行率が伸びなかつた。
実績からR07年度の事業の方向性	新たに補助メニューを増加させ、補助金を利用してもらえるように啓発をしていく。金融機関等と連携し、市内の中小企業に対して脱炭素経営の支援をしていく。

インプット

アウトプット

アウトカム